

巻頭言

同窓会の基盤強化

勝田 啓示

4

特集 1

CCC保護者会(全学保護者会)を開催

勝田 啓示

5

特集 2

リオパラリンピックに出場して

高橋 和樹

15

特集 3

千葉商科大学創立90周年に向けて(第3回)

母校千葉商科大学に学び勤務して

高柳 實

23

活躍する卒業生

ビジネスステージの変化を追及

中川 立也

30

本部からの報告

定期総会 懐かしき思い出工房開催

第47期定期総会

第47期第2回常任理事会

第15回支部長会定期総会開催

「懐かしき思い出工房」開催

第7回本部主催「会員交流会」開催

支部からの報告

同期会からの報告

OB会からの報告

第32回瑞穂会ゴルフ大会開催

同窓生寄稿

「モルダウ」の響き

卒業生のお宿・お店紹介「鉄板ダイニング月丸」

地方自治法記念貨幣発行に寄せて

東京五輪と「おもてなし」

CCC経営者会議

CCC経営者会議ニュース

失敗や何かに挫折した時こそが、最大のチャンスだ！

本田 季伸

62

随筆

中村 聡宏

58

及川 昭造

57

鏡 雄也

56

近藤 正弘

51

齋藤 勉

50

齋藤 勉

50

近藤 正弘

47

近藤 正弘

42

近藤 正弘

38

濱野 和人

37

広報・IT委員会

35

広報・IT委員会

35

広報・IT委員会

33

広報・IT委員会

33

広報・IT委員会

33

教育後援会活動

教育後援会総会、CUC保護者会報告  
チャレンジ応援奨学金給付学生の報告

72 70

CUCの教育

利用者のニーズを捉え、満足度の向上をめざす学生ベンチャー食堂「満腹ダイニング」  
難しいテーマに楽しく立ち向かう

常見 陽平

74

ゼミ紹介

■ ニュース・イベント

3 連覇!! 「瑞穂会」が全国の大学対抗簿記大会で頂点に!

宮崎浩一郎さんが

第17回アジアアローラースポーツ選手権大会インラインホケー競技で銀メダル!

商経学部1年片見公亮さんが

第8回国際クラス別バレー卓球選手権大会でベスト8!

バドミントン部が男女ともに平成28年度関東学生新人選手権大会で好成績!

■ キャンパス・インフォメーション

「The University DINING」学食ランキング第1位

「The University HUB」瑞穂会館にオープン

■ メディアで紹介されたCUCの報道一覧

■ キャリア支援センターニュース

— GET! STRONG VISION! —

第12回CUCライアンス企業フォーラムのご報告

川瀬 功

85

■ 地域連携推進センターニュース

生涯学習、社会人教育支援事業について

地域貢献活動

■ 学生自治会・文化団体・体育会所属各部等の活動状況

「アクション!」地域を変える8人との対話

著者：杉田 このみ

杉田 このみ

93

著書紹介

▼同窓会支部事務局一覽

94

▼編集後記

96

# 同窓会の基盤強化

勝田 啓示

千葉商科大学同窓会会長  
(昭34商)



この度、会長を務めさせていただくことになりました。私は同窓会の役割は多くの人を集め、お互いの交流を深め、人脈をつくり、同窓会自体の基盤を強化し、母校に貢献することだと考えます。

その同窓会の現状は、この2、3期、維持会員（維持会費納入者）は1000人に満たず、必ずしも基盤が強化されているとは言えません。そこで第47期は「如何に人を集め、維持会員を増やすか」を根柢におき、「第47期事業計画」に基づいて同窓会の基盤強化を推進してまいりたいと考えております。

## 1 本部・支部の連携

私は常々、支部活動の活性化こそが同窓会発展の根幹をなすものだと思うっております。今期は常任理事の中に、現支部長、支部長経験者も含まれており、強力な連携のもとに維持会員の増加に繋がるよう推進したいと思います。

## 2 同期会・支部傘下の瑞穂会・各OB会の設立推進、

### 平成年代卒業生の同窓会への参加

第46期より昭和50年代卒業生の同期会、瑞穂会設立を推進しておりますが、今期は特に、各OB会、平成年代卒業生の若い活力の導入と維持会費納入促進を進めたいと思っております。

## 3 大学とのコミュニケーション

大学の同窓会担当窓口との話し合い、相互協力が必要で、学生にも目を向け同窓会のメリットを強調し、積極的に同窓会への参加を呼びかけ、維持会費納入に繋がりたいと思います。

## 4 最後に

同窓会のみならず世の中、人脈は大変重要な要素です。幸い、副会長はじめ各委員会委員長、常任理事の皆様は強力な人脈をお持ちなので、それぞれご尽力を賜り、同窓会の基盤強化を目指してまいります。

# ビジネスステージの 変化を追及

## 中川立也

株式会社アイオイ商事代表取締役  
昭和62年 商経学部商学科卒



卒業して30年の節目の時にこの原稿の依頼を受けたのも何かの縁かと思えます。

卒業後の自分に向き合いながら書き溜めてみたいと思います。

### 大学時代

進学の時、地元愛知県の悪友達に見送られ、1人生活の自由を期待しながら新幹線の車窓に映る自分の顔が少し不安げで、出発の警笛が門出の合図にも聞こえました。今でも乗車する度にふと思い出します。入学し身体の大

きさを見込まれ、空手道部に入部しました。この世界はまさに『1年奴隸、2年平民、3年天皇、4年神様』。自由への期待は一瞬に消滅しましたが理不尽を学び、千商大の看板を背負って1年から他大学との試合に選ばれ、日本武道館に毎年立つことができた事は良き思い出です。この時代は私の人生に骨格を作った気がいたします。

### 卒業そして就職

東京虎ノ門に本社を置く総合メーカー(株)マルマンに就職いたしました。当時はゴルフ関係で有名な会社でし

たが、ゴルフ経験の無い私は量販店を対象にした営業部で自社商品の販売や新規開拓など関東を中心に営業をしております。この会社の社是は独特で『一人ひとりが経営者の精神』。売上・利益・回収の3本を毎月予算立てられ、3ヶ月の平均達成率によって給料が決定します。達成する程に高所得でありやりがいを感じた仕事で、空手道部の精神はこの会社で働くベースでした。当時の大卒初任給の3倍は月給で頂き、何より人の3倍働く事に苦は無く、新規契約などに努力し報われた時は自分の成長と感じられた頃で、自社の製品を購入された人が、身に付けていたのを見た時は喜びを感じました。仕事の成果は至る所で感じるものです。

2年程でしたがお世話になり、次のステージを模索いたしました。

### 帰郷そして家業

就職して2年目の頃に空手道部顧問の猪狩教授からの連絡で2年程度の米国滞在のお話を頂きました。日系の職場でアルバイトをしながら生活できる話です。一つ返事で渡米を決め、身支度に一旦帰郷しました。余談ですが見送りに来てくれた悪友の1人が引越の荷卸し手

伝いに来て、『あれから6年か』と言った一言を覚えていきます。

渡米には先方のご都合もあり、その期間は家業を手伝いながら時間を過ごす予定でございました。家業は昭和45年設立の間屋業で、服飾雑貨や日用品を地元の量販店に卸しており、得意先には上場企業や、後に上場された企業など、得意先の新規開拓を経験している私は父親の努力を感じ取れました。しかし時代はオンライン化。電話とFAXがあれば営業できた時代から新たな投資を求められる中、対応する人が追いついていないのが現状でした。そんなシステム構築と顧客に出入りする3ヶ月が過ぎた頃に6年間の自由こそこの家業のお陰であり、会社の社名は暖簾であり継続する事に意味がある。そんな感覚に目覚めました。

### 自社商品の開発

まず問屋業の存在は何か、これからの時代に問屋業は必要か、など随分考えた20代でした。問屋業なら中川に依頼すれば売れるものは何でも必ず調達する。そんなことまで言われる程、様々なメーカーと付合い仕入をしました。1人でイタリアへ行きブランドバッグなどの買付

をし、並行輸入で販売するなど、行けば何とか成る。こ  
こでもあの精神が生きていました。それでも存在価値を  
高める事に成功はしても所詮問屋、他人の禪（商品）でい  
つまでも商いは出来ない。問屋業からの脱却がいつもつ  
いて回るテーマでした。30代を過ぎた頃、得意先の重役  
から子供服飾売場構築の話を頂き、当時は韓国が服飾製  
品の生産が盛んで品質も中国より良いと聞き、販売する  
製品を決めて現地商社や工場に赴き、当社が企画する商  
品群を製品にしてもらいました。まさに問屋業から自社  
商品の卸売業に脱却できた瞬間です。現在の生産国は韓  
国から中国や越南に移行しておりますが、市場の要求を  
受け追求した結果です。

### その国との交流

商業を前提に他国と交流して久しいですが、政治や歴  
史的な話は一切いたしません。ただ彼らの文化・歴史や  
根の部分を理解しておくべきと思っています。

### 最後に

現在私は千葉商科大学同窓会愛知県支部に在籍し、副  
支部長として愛知県在住の方や岐阜、三重県在住の方に

もご参加いただき、年に6回程度の交流会などの運営を  
しております。集まる皆様はとても気さくで、母校愛の  
強い方ばかりです。勧誘も私の業務ですが、毎年参加者  
が増えているのも嬉しい限りです。

先ほどから述べる精神を作ってくれた母校に感謝と、  
幾許かの恩返しができれば幸いです。母校と皆様のご登  
展をお祈りいたします。

### 中川立也

略歴…

昭和62年 株式会社マルマン入社  
平成元年 株式会社アイオイ商事入社  
平成8年 専務取締役就任  
平成18年 代表取締役就任